

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">~2022</div> <h1 style="margin: 0;">社会福祉原理演習</h1>	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	2単位	SR(演習)	1・2年
	担当教員	田中 治和	

## ■授業のテーマ

社会福祉学批判——社会福祉学への根源的問いかけ

## ■授業の目的

社会福祉学研究の動向を論述し、その批判的考察を目的とします。

## ■授業の到達目標

社会福祉の理念、及び社会福祉観の仮説提示をして述べるができる。

## ■授業の概要

社会福祉学実践、及び社会福祉学研究の根源的課題について考究します。社会福祉は、歴史的には、(日本に限定しても) 慈恵、慈善事業、感化救済事業、社会事業、及び厚生事業等も名称変更を経ながら、現在の社会福祉に至っており、その過程では、社会政策や社会保障、更には、公的扶助との概念が交錯、あるいは相互関連しながら、一見わかりやすく(例えば、人間の幸せ等という言説)、されど説明し難い概念と言えます。

そこで、この講義では、社会福祉の本質、つまり社会福祉とは何かを、先行研究(文献)の講読と、社会福祉実践及び社会福祉学研究の論点整理を、私の拙稿を用いながら、その仮説提示を図ります。あわせて、何故「社会福祉」という営為が、「学問」を必要とするかの根拠も提示したいと考えます。

## ■スクーリングの事前学修(学修時間の目安: 6時間)

大学から送付されている吉田久一・岡田英己子『社会福祉思想入門』(2000年)、萩野浩基『感性のとき』(2012年)を読み、何を社会福祉学の《問い》とするかを考えておいてください。問題意識を持たれてスクーリングに参加ください。

## ■スクーリング授業計画(状況に応じてオンデマンドやリモートで実施します)

	授業の内容	授業の方法
1	社会福祉学の課題①(現状の分析)	リモート
2	社会福祉学の課題②(他の諸科学との関係)	リモート
3	社会福祉理論史研究①(慈善事業思想)	リモート
4	社会福祉理論史研究②(感化救済事業思想)	リモート
5	社会福祉理論史研究③(社会事業理論)	対面
6	社会福祉理論史研究④(厚生事業理論)	対面
7	社会福祉理論史研究⑤(孝橋正一の社会事業理論)	対面
8	社会福祉理論史研究⑥(岡村重夫の社会福祉理論)	対面
9	社会福祉理論史研究⑦(塚本哲の社会福祉原理論)	対面
10	社会福祉学対象論	対面
11	社会福祉学方法論	対面
12	社会福祉学目的論	対面

## ■スクーリングの事後課題

---

### 課題 1

自らの実践、経験を含め、あわせて社会福祉学の知見を援用しながら、自らの社会福祉観の仮説を提示しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

## ■アドバイス

---

### 課題 1 アドバイス

社会福祉学を学ぶために最も重要な社会福祉観を借りものではなく、自らのものにするために、ご自分の経験を大切にしながら、また、あわせて理論研究も学びながら、できうだけご自分の言葉で述べてみてください。

## ■評価の方法・基準

---

スクーリングへの参加状況（60%）、並びにレポート（40%）

## ■参考文献（\*印=大学から送付される必読図書）

---

「社会福祉原理論研究」を参照してください。